

中学生ふるさと企業説明会

11月22日の午後、中学2年生を対象として企業説明会が催されました。従来は市文化会館に企業ごとのブースが出され、生徒は興味ある企業のブースを訪ね説明を聞いていました。しかしコロナの影響でオンラインでの開催となりました(本校の他、二中、二ツ井中等も参加)。

当日は、あきた白神ツーリズム、しらかみ看護学院、アキモク鉄工、ハムセンター秋田、大和農園、能代電設、能代火力発電所の方が説明してくれました。

あきた白神ツーリズムの担当者からは、観光が地域にもたらす影響、地域の魅力、集客アップに向けて、魅力の発信など多岐にわたり説明していただきました。質問コーナーでは清水友翔さんが、



オンラインで質問する生徒

「会社の方が考える能代山本のおすすめの場所は？」と質問。担当者は私見としながら、金勇、風の松原、きみまち阪公園などを挙げました。

本日の会は進路学習の一環です。このような体験を積み重ねる中で、自分の将来について考えてみてください。

ICTを活用した授業研究

本校は令和3～5年度の3年間、県教育委員会のICT活用授業の指定校となりました(全県で6校が指定)。文部科学省のGIGAスクール構想により1人1台のタブレットが導入されましたが、それを授業においていかに効果的に使うかを研究し、成果を情報発信することが目的です。

日常的にタブレットや電子黒板を使用するのはもちろんですが、授業研究会を開いて、他の先生の活用の仕方を学んだり、有効な使い方について協議したりすることも研究推進には重要です。

そこで本校では、今年、4回の授業研究会の他、指定校としての県教委訪問、ICT教育推進アドバイザー訪問等、多くのICT授業参観、研究会を計画しています。

11月30日には国語科と社会科の授業研究会がありました。いずれも2年生の学級の授業で、国語科は保坂由希子先生、社会科は田中嘉志先生が授業者です。

社会科では、ICTでポジショニング

という手法を使いました。3つの選択肢を教師側が例示し、自分の考えがどれに近いかマーキング。そこにマーキングした理由を各自が説明し合うことで全体での学びを深めていきました。

国語科では、タブレットで各自に転送された漢詩をもとに、深い悲しみが感じられる部分に線やコメントを書き入れました。そして、その画面を共有しながら意見交換することで多様な読み取りに気がきました。

生徒はタブレットを日々活用しているので、操作には慣れた様子。サクサクとタブレットを活用していました。今後ともICTの活用方法を研究し、楽しく分かる授業を創り上げていきます。

